

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700217		
法人名	社会福祉法人元気の里とかち		
事業所名	グループホーム元気の里(おとふけ)		
所在地	北海道河東郡音更町宝来仲町1丁目4番地1		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [saku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0194700217-00&PrefCd](http://saku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700217-00&PrefCd)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、町内でも最古のグループホームであると同時に、利用料も町内でもっとも低価格であるという観点からも、利用しやすいと思われる。  
 建物自体は古く狭いが、現在の高齢者にはそれなりに親近感を持っていただけるような家庭的な雰囲気味わえることが特徴的である。  
 これらの特徴を活かしながら、職員一同、入居者の認知症の進行予防のため、アクティビティやストレス軽減を重視し、外出行事・レクリエーションの提供、安心を感じてもらうための、寄り添いを基本としたコミュニケーション等々に拘り、入居者・ご家族との信頼関係の構築に尽力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中で喫茶店として親まれた物件を改修して開設された1ユニットの小規模な事業所ですが、利用者にとって自分の好きな過ごし方ができる、また職員と一緒に活動したり楽しめる環境となっています。事業所内では、元喫茶店だった設備やレイアウトを活かし、大きなカウンターがくつろぎの空間を演出していたり、既存の設備や居室配置を工夫して改修しながら活用されています。地域に根差していた交流場所を、グループホームとして過ごしやすく使いやすいようアレンジされている様子から、日々の取り組みの努力が感じられます。法人理念として、利用者満足、尊厳の保持、個別支援の充実が定められ、いつも利用者がその人らしい過ごし方ができるよう職員も意識して行動しています。また、日頃から職員と管理者との対話が重視され、改善課題の解決やケア内容の向上に即応できる体制と意見交換により、利用者の環境だけでなく職員の働く意欲の向上に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念は入居者個々の有する能力を最大限に尊重した施設生活を過ごしていただくというものであり、入居者の個性に合わせた対応方法を取り入れている。	法人理念を掲げ、職員が日々の支援の中で心掛けられるよう掲示や職員会議の中で確認されています。職員が協力し合いながら、明るく楽しい事業所での生活を常に意識できるよう、事業所の理念「一人はみんなのために、みんなは一人のために」も掲げられています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	野菜や衣類、清拭の差し入れが頻繁にある他、週に一度、地域の方がボランティアで訪問してくれている他、町内会の交流会には入居者全員でほぼ必ず参加している。	利用者が地域とつながりながら暮らせるように、町内会のイベント(焼肉)には多くの利用者が職員とともに参加するなど、町内会の人たちと関わりを大切にされた支援が行なわれています。	町内会への広報誌の回覧など、事業所の取り組みを地域住民へ広く知ってもらおう活動が再び実施されることを期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の清掃活動に参加したり、行事には参加している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の活動内容、困難事例の報告、法人の動き等を報告し、意見や助言をいただき、日々の業務に生かせることは参考にしている。	運営推進会議では、事業所からの報告や情報提供、また学識経験者を含む参加メンバーから質問・意見交換が活発に行われ運営に活かしています。新たな取り組みについて説明を詳細に行い、家族にも会議録が配布され、情報の共有が図られています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町への毎月の待機者報告、町からの介護相談員の訪問とカンファレンス、運営推進会議を通じ、関係を築いている。	日頃から行政との連絡を密にとり、利用者に関する報告や相談を通じて顔馴染みの関係を築いています。また毎月2名の介護相談員の訪問を受け入れており、事業所や利用者の状況を確認してもらっています。年に1回は行政から介護相談員の確認状況がまとめられ、介護や運営にその内容が活かされています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的な拘束は当然のこと、スピーチロック等にも留意し対応している。	管理者を中心に、全ての職員が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。身体拘束の要因となる利用者の行動リスクを詳細にアセスメントし、自立動作を尊重した対応策を実施することで、利用者の危険防止の為の生活環境を実現しています。リスクへのカンファレンスを密にすることで、自分でできる動作が増えるなど、自立支援にも努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度は虐待についての勉強会や研修には参加した実績はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会や研修会に参加した実績はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を読み、了承を得てから契約を締結している。また、改定等があった場合にも書面での説明と共に、承諾をいただき保管している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所自体には特別窓口を設けてはいるが、法人事務局には苦情受付の窓口を設置し、連絡先も契約書に記している。	家族の面会や電話などでの報告時に生活の状況を伝え、家族からの要望・意見を聞いています。家族や利用者の意見や要望は申し送りや会議で報告・検討しているほか、苦情の要素のある要望には管理者が対応し、何度も傾聴したり情報提供を密に行うことで信頼関係の回復を図っています。行事や生活の様子を広報誌でお知らせするなど、開かれた事業所を目指しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とは毎月の職員会議や、年2回の個人面談の際に話し合いをしている。経営者とは年度末に面談を行い、適切な内容であれば意見を反映させている。	職員は随時、管理者へ運営に関する意見を述べる機会があり、管理者によって業務改善提案や要望、備品の整備等の意見としてまとめられています。提案や意見は管理者によって法人に伝えられ、法人は運営改善内容として対応を検討しています。また職員の悩みや職務に対する本人の希望についても、管理者は職員に配慮しながら良き相談相手となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内外の研修に参加した際には手当が支給される仕組みがある他、親睦会、男子会といった催しを定期的に開催している。給与や環境に関しては不公平感があり、改善すべき点が山積している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	年6回の法人内研修や外部研修行く機会を設けるよう尽力している。また、日々の業務の中で適切な介助方法を提供できるよう助言することもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に他の法人と交流する機会は設けていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前には特段の事情が無い限りは必ず面談を実施している。その際には、必要事項を聴取するために作成した、当法人の面談シートを活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時には様々な事項を確認している。そして、適切な説明をもって不安を払拭し、ご家族との信頼関係を構築できるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で得た情報を基に、在宅や他施設で利用していたサービス等の継続を確実に引き継いでいる。他、必要性を検討したうえで、入居後にこちらで提供できる個人に見合った独自のサービスの考案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には施設ではなく家だと感じてもらえるよう、入居者同士や職員と入居者間の人間関係のバランスを考慮し、コミュニケーションを中心に信頼関係の構築を目指し努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出行事等々にはご家族を招き、本人とご家族が触れ合える時間を設け、ご家族と共に入居者を支援していくことを心掛けた取り組みを実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特定の入居者で、本人が居住していた近隣の町へドライブに出掛ける等の対応を取っている。	趣味の集いの場所への外出や、理美容へ直接出掛ける、スーパーへ買い物に行くなど、様々な場面で馴染みの人や場所とのつながりを大切にする支援を行っています。誕生日には希望する場所へ、希望が表出できない場合には利用者担当の職員が「懐かしい場所、楽しんでもらえる場所」を考えて、外出の支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係は把握できているが、関係が悪化しないよう対応するのがやっとの状態であり、今後は入居者間のコミュニケーションをより深めていく取り組みが必要だと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで契約が終了した方から特段相談を持ちかけられ、フォローをしたという実績は無い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	極力ご本人の意思を尊重した施設生活を提供できるよう努めている。	意向については利用者本人から直接聞き出したり、会議等での職員からの情報や訪問時に伺った家族の意見も反映しています。できるだけ一人で過ごしたい人、みんなと楽しく交流したい人、こだわりの飲料をいつも愛飲したい人など、それぞれの希望やライフスタイルを尊重できるよう職員はさりげなく配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の情報や生活歴を重視し、本人にとって、最良の施設生活を提供できるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の職員会議で必ず全入居者の状況を確認し、問題があれば解決方法を探り、実践している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議と合同にモニタリングを行い、その結果をまとめ、ご家族に確認いただいている。	毎月の利用者モニタリングは全職員で内容が共有され、定期またはケース検討で必要と判断されたときに見直しが行われています。計画の見直しでは会議や日常の報告、家族からの要望をふまえて介護計画作成に反映しています。職員は介護計画に沿った日常の記録と、エピソード記録で利用者の様子の記載に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録は、モニタリングや日々の業務に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に不備や改善すべき点が出た場合、迅速に対応策を考案し、実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敷地内の畑で畑作業を行っている。また、町内会の交流会や、清掃活動等にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人には協力医療機関があるため利用を提案させていただくこともあるが、特に固執せず利用するか否かはご家族やご本人の判断に任せている。	利用者、家族が希望する医療機関に、職員が同行する事で受診支援が行われています。健康状態に不安がある時は家族と一緒に受診の動向をすることで医療機関と信頼関係を築いています。歯科医の訪問診療も定期的にご利用することができます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	数か月前より、訪問看護の利用を開始し、看護師には経過報告や相談を行い、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当法人の協力医療機関との連携は行っている。他の医療機関との連携は特段行っていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月の利用料支払いの際にはご家族には入居者様の変化等の経過を報告し、今後の展望について予めご家族と話し合っている。	重度化や終末期の事業所での対応については、契約時に重要事項説明書において「医療的対応の体制整備がより必要になるため、現時点では難しい」旨の説明をおこなっています。現在の医療的体制としては、訪問看護の定期利用による健康状態のモニタリングが行われており、利用者家族の理解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年AED・心肺蘇生法の講習を、消防署にて消防職員から受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の民生委員参加で、年2回の避難訓練を実施している。	夜間を想定した年2回の避難誘導訓練を実施しています。地域住民への災害救出協力の呼びかけ、運営推進会議のメンバーの協力もあり、現場の緊張感を利用者と一緒に感じて訓練を実施しています。火災以外の災害取り組みとして、発電機や灯油ポータブルストーブが備品として整備され、夜間や冬季の災害に備えています。	水害時、利用者全員の避難に即応できる事業所の車両が不足していたようです。災害時の迅速な避難手段として、車いすの利用者を含む多人数が乗り合わせできるワゴンタイプの車両が整備されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には節度を弁えた言葉遣いや態度で接している。時折友達感覚になってしまうこともあるが、信頼関係の構築に一貫として捉えている。	利用者一人ひとりの生活のペースを尊重し、人格や羞恥心に配慮しながら声かけしています。接遇態度が乱れないよう配慮しながら信頼関係が深められるような対応方法を順守するよう徹底され、職員の利用者尊重の接遇に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを食べたい、どこかへ行きたいと言った訴えや希望は常時間かかれている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての側面と家としての側面を考慮し、常に優先順位や必要性を考慮し、極力入居者優先の業務内容を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容に気を配られる入居者の方には、本人が満足するまで整容してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を使用した調理や、盛り付け等は一緒に行っていない。お茶くみやテーブル拭き、食器洗い、食器拭きを手伝ってもらっている。	食事については利用者と職員と一緒に食材の買い出しをおこない、職員と食事を楽しんでいます。献立は毎日職員が利用者と相談したり好みを考えながら決めています。職員と利用者がともに協力し合い、食事の準備をすることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は必ずチェックしている。細かい栄養バランス等は特に配慮していないが、糖尿病や高血圧症がある方の食事・おやつ量には留意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行えない方のみ、毎食後重層水を使用した口腔ケアを実施している。義歯の方は就寝前にお預かりし、消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレに行くことができない方のみ、定時にトイレ誘導を行い、夜間帯はテープ止めおむつを使用し定時にパット交換、清拭を行い対応している。他、稀にテープ止めを使用しているもトイレに行きたいと訴えが聞かれた場合は、トイレに誘導し対応している。	職員は利用者毎の排泄記録にもとづいて、できるだけ自分でトイレやポータブルトイレで排泄できるよう見守り、声掛けがおこなわれています。自立されている方も多く、トイレ排泄を優先した対応となっています。夜間も日中と変わらない支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝オリゴ糖とヨーグルトを提供している他、定期的にミルミルやヤクルト等の乳製品を提供している。他、自律神経について学び、便が生成される時間帯である就寝前に下剤を服用する等の工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日を決め対応しているが、本人が拒否をした場合は無理強いせず中止している。また、曜日以外でも入りたいと訴えがあった場合は何度でも入浴していただいている。	週2回の入浴日を設け、毎回利用者全員の希望や心情に即した対応をしています。拒否傾向の方には、さり気ない声掛けや時間をかけた対話をしたり、別日に入浴を変更する事で対応しています。職員は利用者のその日の体調や気分などを十分に観察し、気持ちよく入浴してもらえるよう繊細に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の様子を観察し、眠気があるようであれば居室で臥床してもらうよう声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化については敏感に察知できるよう努めている。特に精神薬や認知症薬が新たに追加処方された際には、様子観察を強化し、副作用の有無を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しずつではあるが、日々関わっていく中で、入居者一人ひとりの趣味や嗜好を再発見することができている。入居者の精神状態の安定を図る意味でも、重要なことであると認識し重視している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はばんえい競馬、食べ放題、有名レストラン、動物園、へ外出している。個人的な訴えの対応例として、池田町のワイン城への外出も実施している。 また、いずれも町内のボランティアさんと同行していただいている。	季節の外出行事や利用者の行きたいところに出かける支援を積極的に行なっています。日常的にスーパーへの買い物、遠方への外出希望などへも職員が対応し出かけています。利用者の誕生日には担当職員が外食の提案をして出かけることもあります。冬季は運動不足にならないよう午前中に体操のプログラムを取り入れ、利用者の意欲向上や体力維持に努めています。	利用者の買い物や外出レクリエーションを行う際の移動手段として、また災害時の避難手段として、車いすの利用者を含む多人数が乗り合わせできるワゴンタイプの車両が整備されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特にお金に関しての訴えは聞かれていないが、個人的な私物を購入したいと訴えが聞かれた際は、本人と店へ出向き、個人のお小遣いから購入する支援をしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取り行った事例はないが、家族に電話をしたいという訴えが聞かれた際には支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファのカバーを明るい色に変更したり、カーテンの色を変更する等して雰囲気の改善を実施した。他、現状を踏まえ、新たにソファを購入し心地よい空間を提供しよう検討したが、ハード面の問題もあり、中々進展してない状況。また、音に関して、夜間帯に洗濯機を使用すると睡眠の妨げになる為、静音の洗濯機を購入し、何とか工夫し対応している。	リビングに入ると、元々喫茶店として使われていた大きなカウンターと広いスペースがあり、くつろぎの空間を演出しています。リビングや事業所内には利用者の手作り作品や外出時の写真が飾られて、活動に参加した利用者の楽しい雰囲気が何時でも振り返る事が出来ます。	廊下などの共用部分も広くリラックスできる場所となるよう、車いすやポータブルトイレなどの介護用品が収納できるスペースの工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面(建物の広さ等々)の問題はある為、どうしてもソファやテーブルの配置のバリエーションも限られてくる状態である。工夫はしているが、入居者が満足いく形で思い思いに過ごせているかは不明。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の面談で、家具に関しては馴染みの物を用意していただくようお願いしている。	利用者の使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、安心して暮らせるように配置しています。自分の作品や写真も貼られ、事業所での生活が楽しさであふれているのが伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を重視し、極力できることを取り上げない、自分でできることは自発的に行ってもらおう働きかけている。		